

10) 小児肥満における内蔵脂肪蓄積の評価法としての腹壁脂肪厚の有用性

菊池 透・山崎 恒
亀田 一博・樋浦 誠 (新潟大学)
内山 聖 (小児科)

小児肥満における内蔵脂肪蓄積の評価法としての腹壁脂肪厚の有用性を明らかにするために、肥満小児男 275 名、女 113 名を対象に、腹部エコーにより腹壁脂肪厚を測定し、肥満の合併症との関連を検討した。最大腹膜前脂肪厚 (Pmax) は、インスリン、HOMA、TG、収縮期高血圧と正の相関が、HDL-C と負の相関がみられた。高インスリン血症 (15 μ U/ml) に相当する Pmax は、男児 11.0 mm、女児 8.2 mm であった。Pmax は内蔵脂肪蓄積に起因する異常との関連がみられた。Pmax

は門脈域にある肝鎌状間膜の内蔵脂肪厚を直接測定したものであり、腹部全体の内蔵脂肪蓄積量を反映しているため、内蔵脂肪蓄積に起因する異常との関連があったと考えられた。Pmax は内蔵脂肪蓄積の評価法として有用と考えられた。

II. 特別講演

「内分泌攪乱化学物質の最新情報」

岡崎国立共同研究機構統合バイオサイエンス
センター生命環境研究領域教授

井口 泰泉 先生